

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472200233
法人名	有限会社 安寿会
事業所名	グループホーム ゆのやま
所在地 (電話番号)	三重郡菰野町大字千草西江野7054-814 (電話) 059-392-2525
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 11 月 12 日(水)

【情報提供票より】(H20年10月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 6人, 非常勤 6人, 常勤換算 8.1人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円~
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 500 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,400円		

(4)利用者の概要(10月20日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.7 歳	最低 80 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 朋有会
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鈴鹿連山の素晴らしい大自然の山懐(ヤマブコロ)にある、鈴鹿スカイライン途中の、静かなたたずまいの事業所である。周囲の山々の紅葉への変化など、四季のうつろいが見られる美しい場所でもある。利用者が「のんびり、ゆったり生活できる」事業所であり、みんなで冗談を言いあい笑いあって日々を過ごしている。管理者をはじめ職員みんなが優しく、利用者のことをよく考えている温かさがある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回指摘された項目については、改善方向へ向けた検討、努力はあるが、まだ取り組みができていない項目もある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については前もって職員に項目を配布し、理解を深めるよう周知を図っている。勉強会の場を設けて外部評価、自己評価の活かし方を検討し、自分の仕事を客観的に見るにつなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年からの課題になっているが、開催についての方針が決まらず未開催のまま経過している。同じ町内のグループホームの運営推進会議などに参加をさせてもらい勉強をしてきている。行政からも協力的な言葉をもらっており、開催に向けた努力はしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会はもっていないが、意見箱の設置や重要事項書には外部への意見表明ができるように第三者機関などの表記はある。家族の意見は主に面会時に吸い上げるように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会へ入会し回覧板などを回したり、自治会行事に参加したりの交流は図っている。月3回の定期的なボランティアの訪問受け入れなどでも交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年の設立当初から3点の理念を掲げており、その内容は、「その人らしく明るく家庭的な雰囲気」の中で「心豊かに」「地域とのふれあい」を大事にしながら、過ごしていくこととなっており、地域密着型の理念とマッチしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、日々、言葉に出して理念を伝えるのではなく、理念をスタッフルームに掲示するとともに、介護の実践の場とおして理念の方向性を話し、スタッフに伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地的に湯の山温泉郷で周囲には民家はなく地域との付き合いが不利な面もあるが、自治会に加入し回覧板を回したり、地域イベントなどに参加をするなど、交流を図るように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については前もって職員に項目を配布し理解を深めるよう周知を図っている。勉強会の場を設けて外部評価、自己評価の活かし方を検討し、自分の仕事を客観的に見ることにつなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催されていない。開催の意義は理解し、同じ町内のグループホームの会議に参加をして学習をしてきているので、これを参考にして取り組んでいく予定である。	○	運営推進会議の趣旨をよく理解していただき、今年こそ開催に向けた取り組みを早期にさせていただくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護モニター(介護相談員)の受け入れ時に、必ず行政担当者も一緒にこられるので、話をしている。また、福祉課にはこまめに相談に行っているし、菰野町事業者会議が2か月に1回開催されるので、そこに参加することで行政担当者や主だった事業所との知己も得ている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真入りのカラフルなお便りが毎月発行され、日常の暮らしぶりが映し出されている。請求書と共に送られ、家族への報告となっている。家族の面会頻度が多く、その都度、個々の話し合いの機会をもち報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はしてあるが、今まで苦情が入れられたことがない。家族会はもっていないが、重要事項書には第三者機関など外部への相談苦情表明ができることを記載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みを重視し、異動、離職はほとんどない。妊娠出産などで離職した場合も、離職後の元職員が遊びに来てくれるなど、利用者とはコミュニケーションがよくとれている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数とともに、職員の資格取得者数が増えてきている。それだけ、職員全員が前向きな取り組みをしており、管理者も現場に必要な状態に応じて勉強会を開き、医師である運営者の助言も得ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に参加している。運営者である医師が開催する「三泗地区グループホーム宅老所連絡協議会」にも参加し交流を図っている。また、菰野町事業者会議が2か月に1回開催され、行政担当者や主だった事業所との交流も得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が相談に来られることが多いが、事前訪問により本人をよく知ることに努めている。その後、家族だけでなく、本人も一緒に来てもらいリビングなどで一緒に過ごすしながら、雰囲気に馴染めるように支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔話を聞くことでコミュニケーションをとったり、散歩やお喋りを通して楽しく過ごすようにしている。手作りうどんのことなどを教えてもらうなど、一方的な関係ではなく、共に支えあう関係をもっている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式を用いて思いや意向を把握している。思いを把握することでその人の生活を豊かにすることができると考え、会話の中から希望の光を集めている。自分の思いが口にできない人には家族からの情報と本人の表情を読み取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	東京センター方式を用いて介護計画を職員が作り、さらに申し送りなどで上がってくる意見を参考にして計画作成担当者が最終的に作成し、それを再び現場に戻し、問題点を協議し、関係者の納得を得て介護に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度の見直しは、ケアプラン作成などで変更部分がなければ計画作成担当者で日々の状態を見て赤字で訂正更新しているが、介護現場の職員の意見が十分反映されていない。月一度ミーティングで医師に状態報告をして話し合いをもっている。	○	利用者の状態を一番良く知り得ているのは現場の職員であることから、定期的並びに随時の見直しは、現場の職員や、本人、家族なども関わった細やかな取り組みにより、更なる質の向上を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助をしていることや、運営者が医師であることから、週1回の回診や年1回の健康診断などもできている。在宅酸素や胃瘻などにも対応できるように支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者が医師であり、ほとんどの利用者が事業所のかかりつけ医として診てもらっているが、従来からのかかりつけ医がある場合には、家族の協力を得て支援をしている。歯科医については一番近い歯科医に協力を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに数名の終末を見送っている。重度化した場合には、ターミナルの診断が確定した時点で、事業所独自の対応指針文書に、家族からの同意を得て対応している。職員教育も徹底され周知を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は事務所で保管している。お便りに顔写真を掲載することについては入居時に家族に同意を得ている。職員についても守秘義務を徹底し、入社時、退社時には誓約書を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は始まりも終わりも自由に行っている。それぞれの方のペースに合わせた生活を大切に、部屋に帰るのも、散歩に出るのも全てその日の利用者の気分に合わせて生活ができるように希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は食材提供業者からの搬入を受けているが、配膳や盛り付けなどは、できる利用者と職員と一緒に取り組んでいる。また、食事と同じものを同じテーブルと一緒に楽しくいただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後からの入浴となっている。希望があれば毎日の入浴も出来るようにしているが、本人の意向を踏まえつつ入浴を強制しないように、しかし清潔は保てるようにと、タイミングを合わせた支援をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞や本を読むこと、おしゃべりを楽しむこと、絵を描くなど、生活の場面場面に応じて参加を促し、日々喜びの日となるように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は遅番勤務者の業務として天気のよい日には一緒に周辺の散歩に出かけている。風にあたるだけが好きな人はベンチに座って一緒に過ごすなど、外気に当たる工夫をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は全くかけていない。鍵をかけないケアについては職員も十分に理解をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は、今年はまだ一度も実施していない。セコムの監視体制はとりつけているが、緊急通報装置はない。	○	周囲が温泉保養所等の地区のため、近隣が遠いので、利用者が昼夜を問わず安全に避難出来るように、町の消防署や地域の方の協力を得て、夜間の想定も含めた避難訓練の実施を定例的に行われることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供業者の栄養士による老人向け献立となっており、カロリーなど栄養バランスは確保できている。水分量などについては、排尿排便などのチェックにより、不足のないよう見守っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は広く、ソファがおかれ自由に過ごせるようになっている。リビングにもソファがあり、利用者同士が共に楽しく過ごせる場所になっている。全体的に、明るくて清潔な共用空間である。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は総じてさっぱりとし、きれいである。持ち込みは自由になっているが、花が好きな人の居室では、壁に花の絵が、机には生花が活けてあるなど、花に囲まれた生活により、本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。		